

太刀 銘 備州長門國光ノ康應元年十二月日

法量 刃長 602 mm 反り 20 mm 元幅 27.0 (28.0) mm 重ね 6.6 mm 鎗重ね 6.9 mm 先幅 17.1 (17.7) mm 先重ね 3.4 mm 先鎗重ね 4.2 mm

形状 鎗造り、低い庵棟、身幅やや狭く、腰反り深く、先反り加わる。

鍛 板目に杻交え、地沸ついで肌立ち、乱れ映りと地斑映りが交差する。

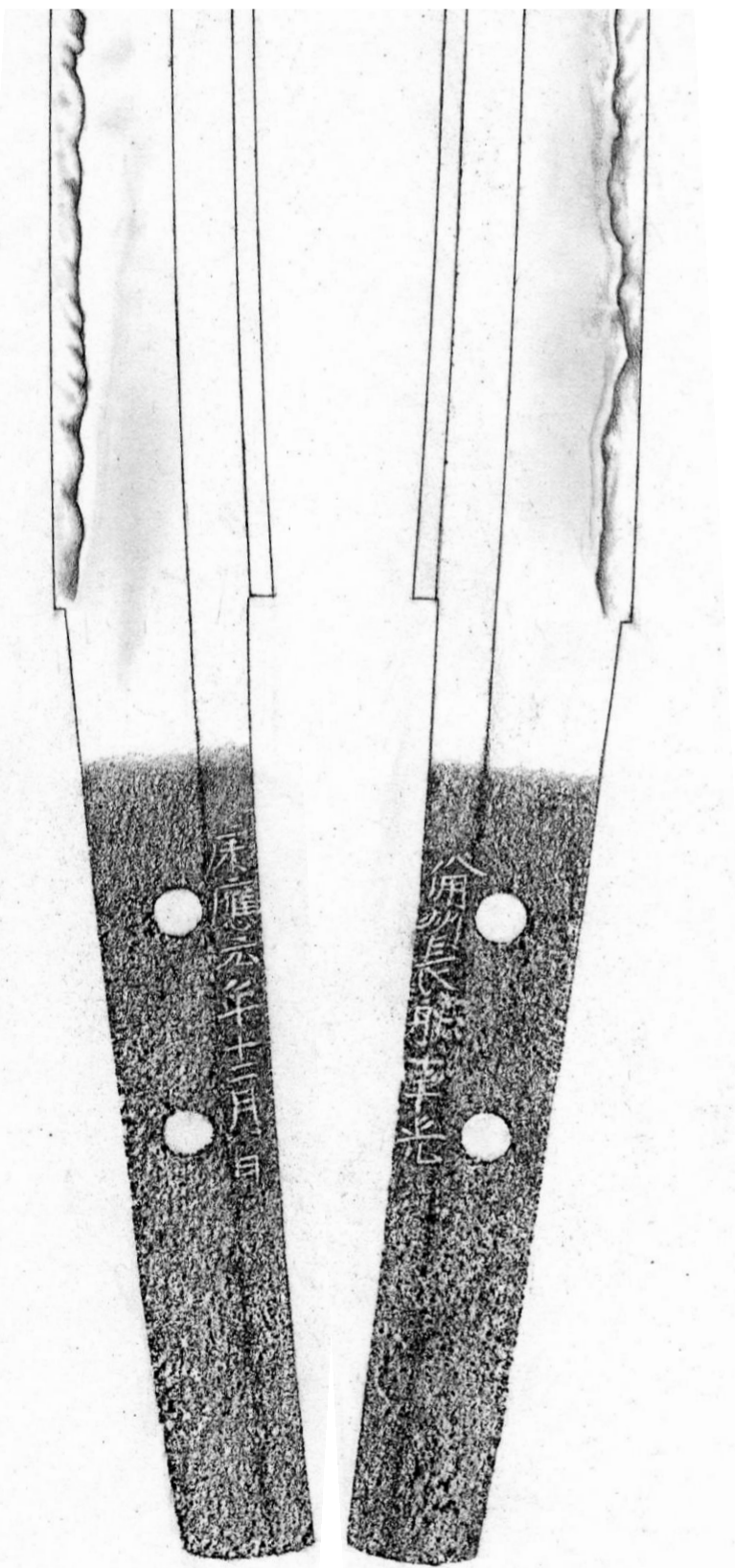
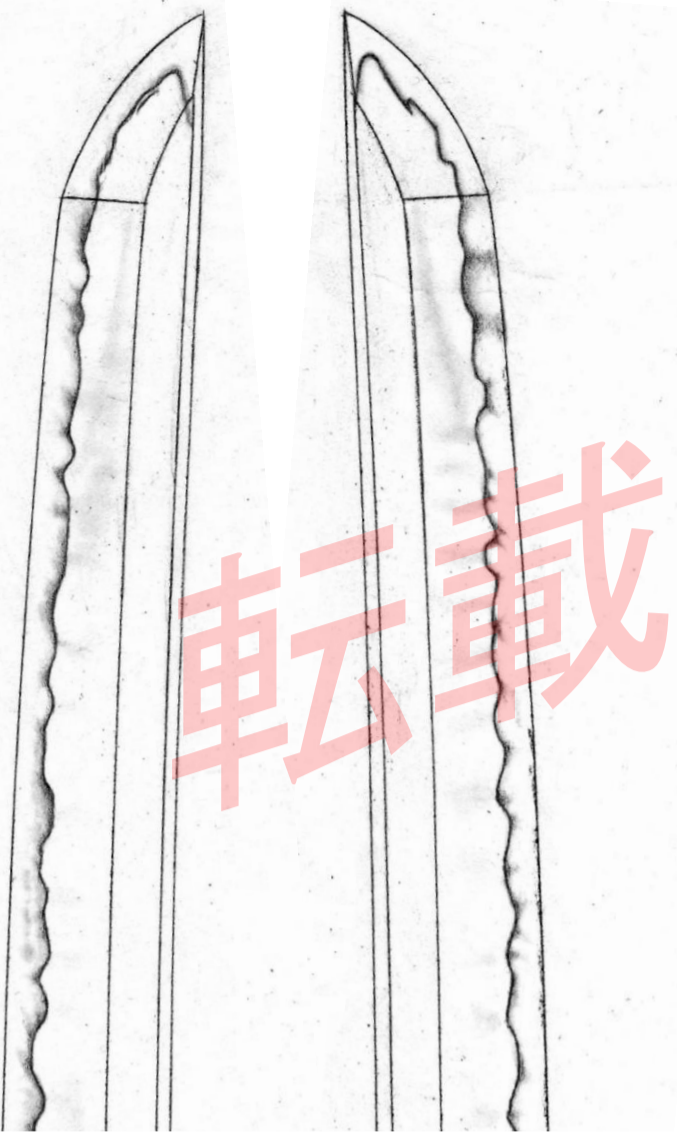
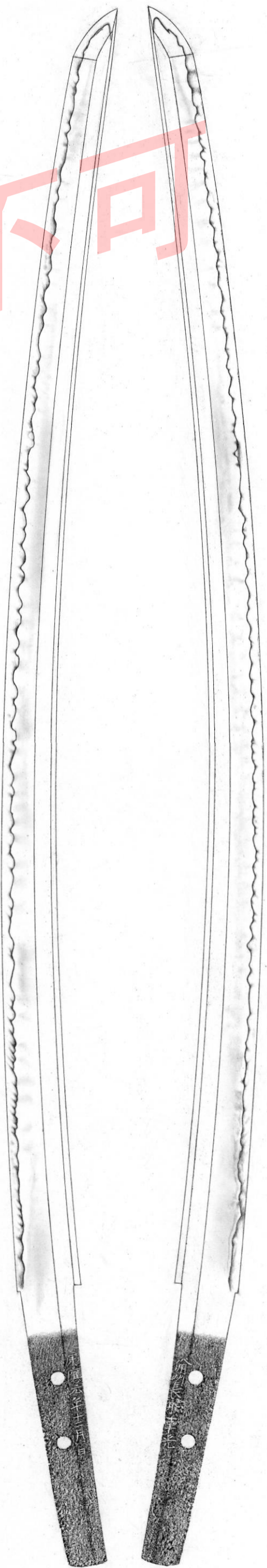
刃文 互の目に小湾れ交え、佩裏は二つ連れ刃が目立ち、小足が入り、腰元は逆がかる。

帽子 乱れ込んで先小丸、短く返る。

茎 僅かに磨上、先浅い栗尻、棟角、鑢目勝手下り。

本工は小反りの鍛冶であり、作例は少ない。康應は南北朝最後の元号であり、僅か十五ヶ月後には明應に改元される。

縮小率50%



転載不可